

子供の日です。このゴールデンウィークはどこかにおでかけでしょうか？ この号は、旅行についての編集後記が主な記事になってしまいました。楽しい休暇をお過ごしください。

/// I N D E X //

- ・ ISO 関連解説-----ISO32212(金融機関のネットゼロトランジション)が DIS になりました。
- ・ LCA の実務 mini 27---グリーンウォッシュとは？
- ・ LCAF からお知らせ---LCA 初級研修を 6 月 25 日 (水)・26 日(木)に行います。
- ・ 編集後記.....海外旅行

■■ ISO 関連解説 : ISO32212(金融機関のネットゼロトランジション)が DIS になりました。■■

ISO32212(Net zero transition planning for financial institution)が DIS になりました。同時にタイトルの変更案が出ています。提案されている新しいタイトルは”Transition planning for financial institutions”で、”Net zero”を外すというものです。

この規格は、TC207/SC7 で開発中の ISO14060 (Net zero aligned organization) と対で、共にこの 11 月にブラジルで行われる気候変動締約国会議(COP 30)で発表されるように企画されていました。この DIS の本文中にも”ISO14060 (開発中) の要求事項と協調する(harmonized with ISO14060(under development))”と書かれています。しかし、ISO14060 がまだ CD も発行されておらず、10 月 25 日から開催される TC207/SC7 総会で DIS になるかどうかという状況なので、Net Zero をはずしておくという判断のように思います。

この DIS の内容ですが、全体的にパリ協定に合致した行動を求める規格になっています。CD にあった”strategic ambition”や”strategic transition planning”などを取り除き”transition planning”に統一したので、とても理解しやすくなりました。一般に、パリ協定を重視する人たちの文書は、”strategic”や”ambition”がたくさん出てくるように思います。それぞれの定義を明確にせずこういう言葉が付いた用語を乱発する傾向があるので、注意が必要です。

また、”transition planning”に向けた行動とこの DIS の章立ての関係を、次のように明確にしました。第 4 章:リスクと機会の特定、第 5 章:組織のパスウェイ及び目的(objective)と目標(target)の明確化、第 6 章:目的と優先策のリスク管理とファイナンス計画への取り込み、第 7 章:トランジション計画の結果(outcome)のコミュニケーション、第 8 章:トランジションパフォーマンスのレビューと再構築、として、第 4 章に再び戻り繰り返しの行動を求めています。この繰り返しの行動は、ISO14001:環境マネジメントの PDCA サイクルを意識しています。

第 4 章で GHG の排出量を算定することが要求され、ISO14064-1(組織の GHG)と GHG プロトコルの SCOPE3 基準、及び SCOP3 基準のガイダンスとして PCAF(Partnership for Carbon Accounting Financials)が示されています。したがって、Scope3 基準のカテゴリー15 (融資や投資先の GHG 排出量)の算定、すなわち産業界への GHG 排出量の算定が今後さらに求められることになると考えられます。算定方法については上記の他のガイダンスを参照することとし、この DIS 自身は具体的な算定方法を示していません。金融機関の行動についての要求事項を示していると理解できます。

DIS で示される行動の中に、GHG を削減して最後に残る残余排出量(residual emissions)をカウンターバランスすることがありますが、その定義は「除去(removal)と削減(reduction)のカーボンクレジットを使う」とされています。開発中の ISO14060 (Net zero aligned organization) の基になっている IWA42:2022(ネットゼロガイドライン)では削減のカーボンクレジットの使用を認めていないので、ISO14060 と整合しない可能性があります。

また、最後の第 9 章がガバナンスになっており、その中に「個人 (少なくともトップマネジメントチームのメンバー1 名を含む) に対して、トランジションパフォーマンスインディケーター (業績指標) に連動した報酬体系を導入しなければならない(shall)」という一文があります。役員報酬まで ISO の要求事項にする必要があるのか、私は疑問ですが、皆さんはどう思いますか？ ちなみに、次の「LCA の実務 mini27」で紹介する「グリーンウォッシュ」の解説本では、役員報酬への連動を好ましいものとして絶賛しています。

この DIS は今、各国の投票期間になっています。賛成多数で FDIS になることが予想されます。

■■ LCAの実務 mini27：グリーンウォッシュとは？ ■■

国連や ESG 評価のコンサルタントでの勤務経験があり、現在オーストラリアに住んでいる人が「グリーンウォッシュ」について解説した本の翻訳に取り組んでいます。この夏に丸善から出版予定です。彼によれば、グリーンウォッシュには、「グリーン・スピーク」、「ミスディレクション」、「グリーン・スキヤミング」の3つのパターンがあります。

「グリーン・スピーク」は、はっきりした根拠を示さずに、ふわふわした言葉や誤解を招く表示をすることです。環境についての自己宣言である ISO14021：2016（現在改訂中）も根拠がない「環境にやさしい」という漠然とした表示を禁止しています。「ミスディレクション」は、本当のことに触れずに宣伝したいことの方に話を持ってゆくことです。良いこと（良い製品）のことだけを言い、残りについて何も言わないことがこれに属します。最近話題の「削減貢献量」や「マスバランスアプローチ」で GHG 排出量が少ない製品だけをとり上げ、残りの製品について何も言わないことがこれに相当すると思います。「グリーン・スキヤミング」は、真実が分かっているがそれを隠し、儲けようとすることです。著者は、持続可能性を否定し人々に疑惑を抱かせ、それによって儲けようとする化石燃料企業を例に挙げています。

この本には、かなり過激な企業批判も含まれています。最初にお断りしておきますが、私はこの著者の考え方全てに賛同しているわけではありません。むしろ反対の部分もあります。しかし、「グリーンウォッシュ」が海外でどのように考えられているかを知ることが必要だと思い、丸善の翻訳企画に協力することにしました。私が会長を務めている LCA 日本フォーラムで、この本の内容を皆さんにお伝えするイベントを企画中です。ご期待ください。

■■ LCAF からのお知らせ ■■

○LCA 初級研修の日程です。

LCA 初級研修を 6 月 25 日（水）・26 日（木）に行います。ライフサイクルアセスメント（LCA）での比較の基本である「幸せ同等の原則」などの基礎をわかりやすくまとめた研修です。これから LCA やカーボンフットプリント（CFP）に取り組む人の受講をお勧めします。

○[再掲です] 新しい参考図書「基礎から学ぶ LCA～LCA の実施と活用～」を発行しました。

以下からお申込みください。（3,000 円＋税＋送料）です。

<https://lcaf.or.jp/education/textbook/>

■■ 編集後記：海外旅行 ■■

私が最初に海外旅行に行ったのは大学 2 年生の春でした。高校の友人のお姉さんである残間里江子さん（有名人だと思いますが。。）に「知り合いの海外ツアーにキャンセルが出て困っているのであなたたち 3 人で参加しなさい」と言われてヨーロッパ 2 週間の旅に出ました。当時の格安ツアーだったのでしょう。旧ソ連のアエロフロートでモスクワ経由パリに着き（私が飛行機に乗ったのはこれが最初です）、アムステルダム、ジュネーブ、バルセロナ、マドリード、ロンドンを回りました。ユーレイルパスを使った全行程列車移動の旅で、夜行移動もありました。当時の列車は 6 人定員のコンパートメントで、椅子を引っ張り出すと平らな部屋になり、そこでみんなで雑魚寝するわけです。ロンドンにはカレーから連絡船で渡りました。まだ国境ではパスポートチェックがあり、日本赤軍が活動していた時代ですので、大学生には厳しい審査がありました。

私たちを入れても 10 人ちょっとの小さいツアーでした。行く先々でツアーコンダクターが駅の旅行案内所に駆け込み、その日に宿泊するホテルを予約します。これを手伝ったので、次に個人でヨーロッパ旅行をする自信ができました。言葉が分からなくても何とかできるのです。個人で旅行する時には、飛び込みでホテルに行って部屋があるかどうか聞き、値段の交渉をします。

アメリカ旅行は自動車ですので、Vacancy の看板が出ているモーテルを探します。ドイツやオーストリアは、どんな小さい村でも教会とその横に食事とベッドを提供するゲストハウスがあるので、行って交渉します。田舎に行くと英語が分からない人が多いので、片言でも旅行ドイツ語が必要です。でも、英語に相当する単語さえ覚えれば何とかできます。「ハーベン (have) ジー (you), フライツマー (free room) ホイテ (today) ?」という具合です。何とかできるというよりも何とかして来たんですね。インターネットも電子メールもない時代でしたから、自分で何とかするしかなかったのです。

さて、最近の海外旅行ですが、ホテルもインターネットで予約できます。また、ヨーロッパは非英語圏でも英語を理解する人が格段に増えていると感じます。

旅行中の言葉について私が思うのは、ホテルのフロントのように私がお金を出す立場の時は、

相手がわかろうと努力してくれるので何とかなるのですが、免税手続きのようにお金を返してもらおう立場の時は、私の英語は通じないということです。当時は日本へ向けて出国する時に品物と手続き書類を持って免税窓口に行き説明する必要がありました。書類にハンコをもらおうと隣の銀行で現金を返してくれたと覚えています。それ以来、面倒なので（正直に言うとお金もないので）免税品を買ったことはありません。何号か前の LCAF 通信に書きましたが、私の英語を理解してもらえるかどうかは、私の熱意と相手のわかろうとする気力だと思います。ISO の交渉でもこの原則は変わりません。

ホテルに限らず観光地も、コロナ禍以降インターネットでの予約が当たり前になってきました。昔は並んでいれば入ることができた観光地もインターネットでの事前予約が必要で、行っても入ることができないことが多くなりました。（大阪万博もそうだと聞きました）。私のようにスマホを扱うことが下手くそな人が行けるところが少なくなっているように思います。昔の海外旅行は言葉で苦労しましたが、今はスマホで苦労します。進歩なのか、退歩なのか、何が理想なのか、よくわからない時代になりました。

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

ご意見,ご感想,この「LCAF 通信」の配信停止のご連絡はこちらまで
lcaf-contact@lcaf.or.jp

一般社団法人 日本 LCA 推進機構
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)
(エルカフと呼んで(読んで)ください)
〒170-0013 東京都豊島区東池袋 1-36-7
アルテール池袋 608
電子メール : lcaf-contact@lcaf.or.jp
URL:<https://lcaf.or.jp/>